

平成 28 年度  
第 1 回 室蘭市文化財審議会

とき：平成 29 年 2 月 23 日（木）  
13 時 30 分～16 時 00 分  
どころ：室蘭市役所 2 階 1 号会議室

会議次第

- 1、開会
- 2、教育長あいさつ
- 3、議事
  - (1) 歴史的建造物、旧絵鞆小学校敷地及び建物の活用について 資料 1
  - (2) 遺跡出土のアイヌ人骨等について 資料 2
  - (3) 図書館整備に係る添田家文書の再整理について 資料 3
  - (4) 蒸気機関車移設と旧室蘭駅舎の活用について 資料 4
  - (5) その他
- 4、閉会

## ■歴史的建造物、旧絵鞆小学校敷地及び建物の活用について

### 1. 経過

市内の歴史的建造物の保護のため、現存する物件の歴史性や建築的特性、景観特性などに基づく評価付けをこれまで整理してきた。

上記の特性から「指定等の措置が妥当」として先に評価案を示した物件のうち、旧絵鞆小学校円形校舎棟について、今後の建物の保存活用について、さらに検討を行ってきたところ。

物件自体の劣化や、敷地に確認されている埋蔵文化財包蔵地（絵鞆貝塚）など、関連する課題が輻輳している。

### 2. 旧絵鞆小について

**物件の価値** 昭和30年代に特異な建築様式、円形校舎の一例

「二棟一対」となっており、全国的にも希少

景観形成上も有意で、写真の被写体などとしても活用

#### 課題

①耐震性 体育館棟 なし ≈ 活用が見出しがたい

(耐震化には設計・工事と、多額の経費を要す。外観変更もか)

②老朽化 耐震有無にかかわらず、今後の長期維持には大規模改修を要す

③立地条件 住宅地に隣接（維持管理・安全面への配慮が不可欠）

### 3. 現況

円形教室棟（耐震性あり） 当面利用継続（適応指導教室など）

円形体育館棟（耐震性なし） 現在閉鎖中

矩形校舎（耐震性なし） 現在閉鎖中

### 4. 市（行政）としての基本的な方向性

未利用建物・土地 民間活用の促進（売却・解体など含む）

\*円形体育館棟 行政需要 特段なし → 売却等の模索

### 5. 付帯的な整理

#### （敷地）

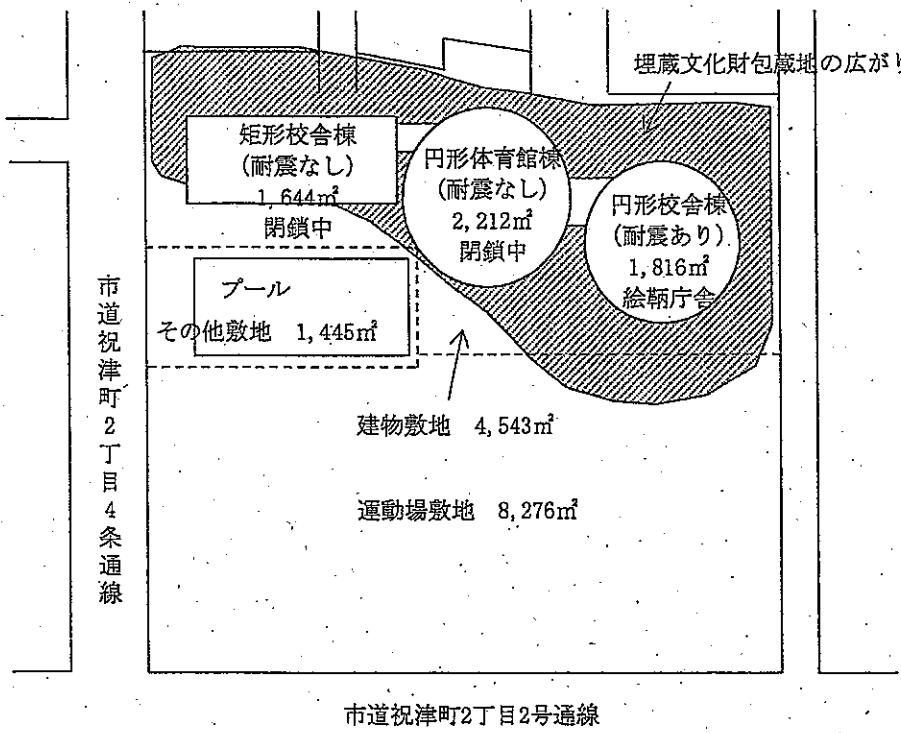
グラウンド側 活用策検討（宅地等の民間活用）

校舎棟付近 埋蔵文化財包蔵地が広がるため保留

#### （その他建物）

プール・倉庫など 安全面に配慮し、適宜時期を見計らい解体

旧絵鞆小学校 配置図



円形校舎棟 耐震性あり

昭和33年12月建築 RC造 3階 1,816m<sup>2</sup>

教育委員会絵鞆庁舎

1階 蘭西適応指導教室、教育研究所、齊藤文庫、会議室

2階 遺跡出土品資料室 (平成30年度 開設予定)

3階 学校歴史資料室 (平成29年度 開設予定)

円形体育館棟 耐震性なし

昭和34年12月建築 RC造 3階 2,212m<sup>2</sup>

矩形校舎棟 耐震性なし

昭和52年 3月建築 RC造 3階 1,644m<sup>2</sup>

校地面積

建物敷地 4,543 m<sup>2</sup>

運動場用地 8,276 m<sup>2</sup>

その他地 1,445 m<sup>2</sup> …プール、法面など

14,264 m<sup>2</sup>

## ■遺跡出土のアイヌ人骨等について

### 1.はじめに

人種・民族論的な関心から、大学研究機関等によりアイヌ民族の墓が盗掘され、人骨等(副葬品含む)が収集された経過が、明治期以後、全道各地であった。

こうした状況を精算するため、アイヌ民族の遺骨等についての国の基本的な方向性は、大きく以下の3点になる。

- ①個人が特定できるもの(特定遺骨)については、「子孫等への返還」
- ②個人が特定できないものは、白老に整備する「象徴空間・慰靈施設へ集約」
- ③集約等の際には、「副葬品は人骨と帰趨を一致」

個人が特定される遺骨は本市には該当がないが、遺跡の調査時に発見された人骨等が複数体保管されており、これらは白老への「集約・慰靈」の対象になっていきる。今後具体的な集約への取り組みが求められる状況にある。

### 2.現在市教委で保管しているアイヌ人骨等

基本 違法に盗取したものではない(多くは遺跡の適法な発掘調査による発見)

個人が特定される遺骨はない

数量 人骨7体、ほか副葬品のみのもの1 (別紙一覧+写真のとおり)

経緯 市内近郊の遺跡の調査において出土

室蘭大谷高等学校・溝口教諭が関与 → 資料館開館に伴い移管

課題 「発見届」などの法的手続きが一部未了なものあり

\*ほか市内出土で北大・札医保管の人骨等もある見込み(市の関与なし)

### 3.市教委としての考え方

○地元関係団体(室蘭アイヌ協会)の意向を基本的に尊重

○市外出土遺体等は、法的な適正化後に出土先に戻す(地元自治体・団体で検討)

### 4.付帯する課題

副葬品も含め集約の場合、地元にアイヌ文化現物資料がほとんどなくなる

→ アイヌ文化に関する物件について、市指定等の積極的な検討を要す

候補例(別紙参考) 来歴が明確な地元のアイヌ民具一式(有形民俗)

小森忍作アイヌ文様の図書館陶板(美術工芸品)

### 5.参考

遺骨返還 北大・札医の返還手続きパンフ

象徴空間整備 国のロードマップ、象徴施設ネットワーク

その他 公財アイヌ文化振興・研究推進機構のフォーラム

## 民俗資料館に保管されているアイヌ人骨等の一覧

\* 網掛けは市外出土であることを示す

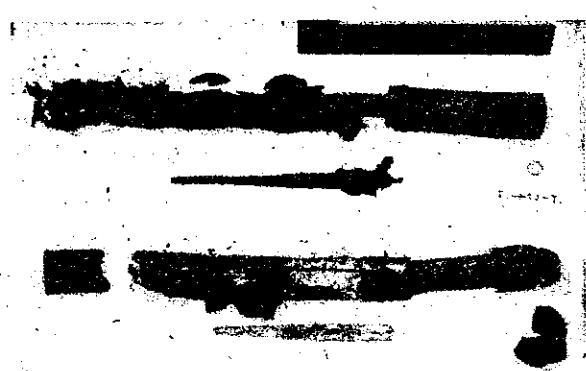
番号	状態	出土地・遺構	性別等	由来
1	一部のみ	エンルム遺跡 A地区 3号	女性	昭和44年の市教委による発掘調査出土。資料館開館に伴い移管
2	一部のみ	エンルム遺跡 A地区 13号	不明	昭和44年の市教委による発掘調査出土。資料館開館に伴い移管
3	全身	エンルム遺跡 A地区 14号	男性	昭和44年の市教委による発掘調査出土。資料館開館に伴い移管
4	一部のみ	崎守2遺跡 1号	不明	昭和43年工事着工時に不時発見。資料館開館に伴い移管
5	全身	崎守2遺跡 2号	女性	昭和43年工事着工時に不時発見。資料館開館に伴い移管
6	一部のみ	登別市 鶯別3遺跡	不明	昭和37年工事着工時に不時発見。頭蓋骨のみ北海道大学にあり。その他の骨・副葬品は当初室蘭大谷高校にあり、資料館開館に伴い移管
7	一部のみ	(絵鞆町)	不明	昭和37年出土か。当初室蘭大谷高校にあり、資料館開館に伴い移管か
8	(副葬品 のみ)	伊達市 有珠善光寺遺跡 (米屋地区一号)	一	昭和42年室蘭大谷高校調査。人骨は札幌医科大学にあり。副葬品は当初室蘭大谷高校にあり、資料館開館に伴い移管



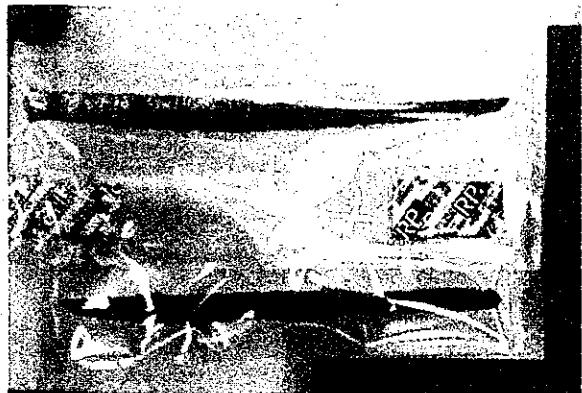
No. 3 エンルム遺跡A地区 14号



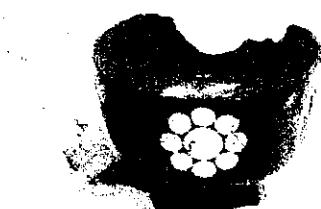
同保管状況



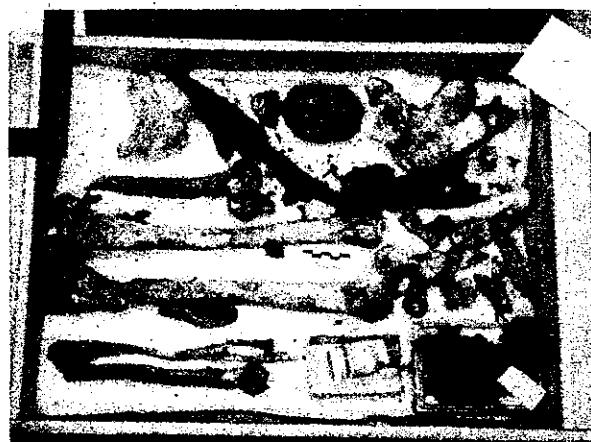
上段 エンルム遺跡 A 地区 3 号、下段 同 14 号 エンルム遺跡 A 地区 14 号



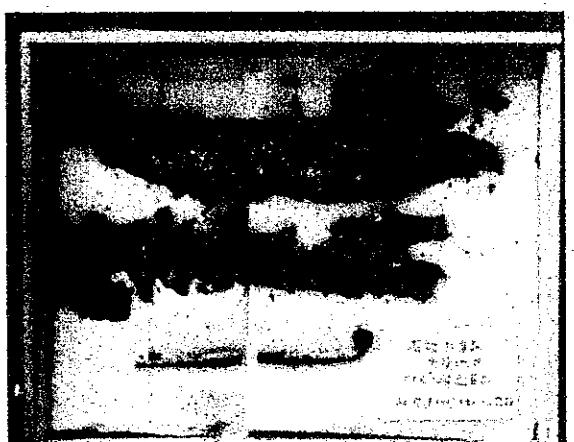
No.5 崎守 2 遺跡 2 号



同副葬品



No.6 登別市鶯別 3 遺跡(部分)



No.8 伊達市有珠善光寺遺跡(副葬品のみ)

市内に所在するアイヌ文化に係る物件(副葬品など以外)

○アイヌ民具(民俗資料館蔵)

パツチ(鉢)、シントコ、オッヂケ(膳)、トウキ(杯)・受け台

昭和初期に、絵鞆・祝津地区で祭祀に使用されたもの

この地域で実際に使われた来歴が判明しており、且つ一括性がある事でも希少

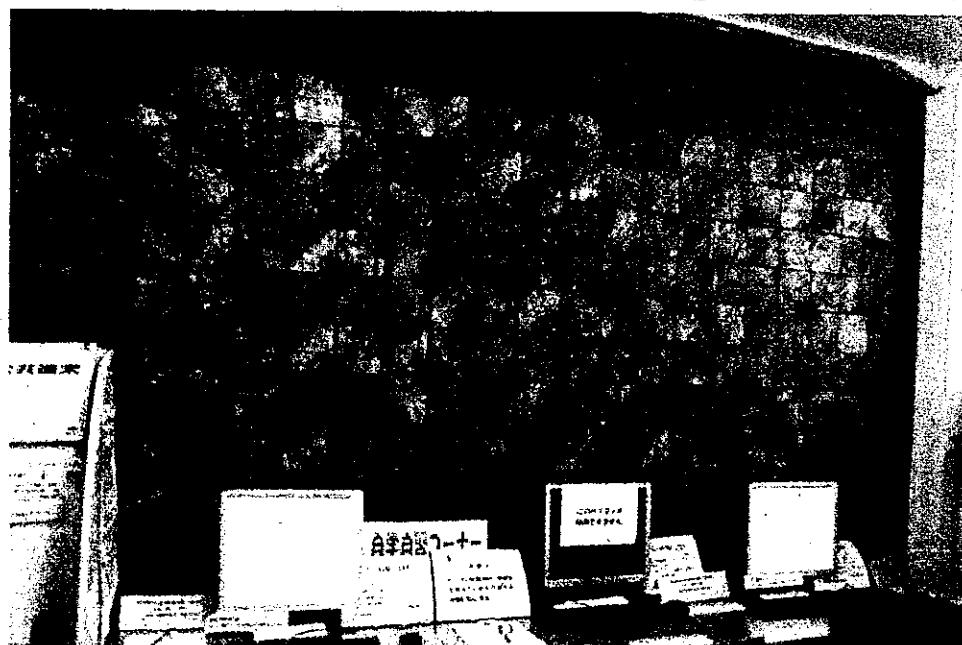


○図書館陶板(装飾タイル) 横 4.8 × 縦 1.6m.

昭和 33 年現在の図書館整備に合わせ設置されたもの

戦前戦後と近代窯業(釉薬研究)を主導した小森忍(1889~1962)の作

小森の装飾タイルとして現存例極めて少ない。アイヌ文様をモチーフにしたことでも稀有。



# 博物館にアイヌ民族遺骨

## 道内3施設 16体 調査せず保管

アイヌ民族の遺骨が、北大など全国の大学以外に、道内の博物館に保管されていることが、北海道新聞の調べで分かった。文化財として公となっている遺骨を除き、北海道博物館(札幌市)など3施設に計16体が明確な位置づけがないまま保管されている。博物館にあるアイヌ民族の遺骨については、国が全国規模で調査を進めており、大学保管の遺骨同様、慰靈や保管、返還などの扱いが議論となりそうだ。

(31面=問題の解明複雑化)

アイヌ民族の遺骨を保管している道内の主要博物館(判明分)

博物館	遺骨数	入手の経緯など
函館市立函館博物館	10体 (10件)	4体は、北大医学部元教授の家族から、1994年に寄託(後に寄贈)された。元教授が千島列島の占守島などで発掘したものとみられる。残る6体は、前身施設から受け継いだり、工事現場から出てきた遺骨が持ち込まれたりした
北海道博物館(札幌市)	5体	道内の郷土史家と医師から1970~80年代に寄贈された。このうち3体のラベルなどに、見つかった場所とみられる道南の地名が記されている
室蘭市民俗資料館	1体	開館時から保管しているが、提供者は不明

道内では、遺跡の発掘に伴つてアイヌ民族の遺骨が見つかるケースは珍しくない。文化財保護法に基づく埋蔵文化財として主に市町村が所有し、報告書などで公表されている。こうした

手続きを踏んでいないアイヌ民族の遺骨が保管されていないか、博物館法に規定される登録博物館など道内35施設に尋ねた。

その結果、道が運営する

35施設に尋ねた。

北海道博物館など3施設は広く知られていないが、北海道博物館が5体を、函館市立函館博物館が10体(10人分に相当するか調査中で正確には「10件」)を、室蘭市民俗資料館が1体を、それぞれ収蔵室などでも保管していると回答した。

北大など全国12大学に保管されているアイヌ民族の遺骨約1600体も、多くは文化財ではない。遺骨収集の方法、保管や慰靈のあ

りで外部から持ち込まれたり、前身施設から受け継いだりしていった。いずれも、身元や埋葬時期、発掘の経緯などについて詳しい調査は行われていなかった。また、遺骨返還の権利を有するアイヌ民族らに保管状況が広く知られていないかつた。

北海道博物館など3施設以外は、釧路市立博物館が取材に対し「回答を差し控える」と答え、残る博物館は文化財以外の遺骨を保管していないとした。アイヌ民族の遺骨が博物館に保管されている可能性は以前から指摘されており、文部科学省は全国の博物館など約5千館を対象に調査している。

3施設の遺骨は、寄贈など

り、前身施設から受け継いだりしていった。いずれも、身元や埋葬時期、発掘の経緯などについて詳しい調査は行われていなかつた。また、遺骨返還の権利を有するアイヌ民族らに保管状況が広く知られていないかつた。

北海道博物館など3施設以外は、釧路市立博物館が取材に対し「回答を差し控える」と答え、残る博物館は文化財以外の遺骨を保管していないとした。アイヌ民族の遺骨が博物館に保管されている可能性は以前から指摘されており、文部科学省は全国の博物館など約5千館を対象に調査している。

北大など全国12大学に保管されているアイヌ民族の遺骨約1600体も、多くは文化財ではない。遺骨収集の方法、保管や慰靈のあ

り方について、アイヌ民族から問題を指摘されている。博物館の遺骨についても、こうした点が問われる可能性があり、胆振管内白老町に整備される「民族共生徵空間」での慰靈も含めて今後、検討が求められそうだ。

政府は、大学に保管されている遺骨について、身元が分かるものについては希望する遺族らに返還する方針。分からぬものは、「象徴空間」に集めて慰靈するか、もともと埋葬されている地域のアイヌ民族団体などへの返還を検討している。

文化財保護法に基づく埋蔵文化財・文化財

に入れる前の人の骨は原則、文化財として認められる。ただ北海道博物館などで保管され、1950年に同法が施行される前に発掘された遺骨などの可能性も考えられる。

# アイヌ民族遺骨 道内3施設に

## 「発掘」「保管」解明複雑に

北海道博物館（札幌市）など3施設が保管するアイヌ民族の遺骨は、いずれも20年以上前の寄贈などによって持ち込まれた。北大など大学が保管する遺骨は長

年、発掘の正当性や保管のあり方をめぐる問題が表面化してきただけに、アイヌ民族らからは「なぜこれまで詳しい調査を行ってこなかつたのか」と疑問の声があ

上がる。北大の研究者が発掘した遺骨の一部が博物館にあることも判明し、遺骨をめぐる問題の複雑さが浮かび上がった。（1面参照）

「意図的に遺骨を収集しないとしたことはない。さまざまな資料を収集する博物館の役目において、結果的にアイヌ民族の遺骨が含まれていた」。北海道博物館の担当者はこう話す。

かび上がった。（1面参照）

一方、函館博物館の10体中で正確には「10件」）に

は、約70年前に博物館が設

置される前の施設から引き

継いだ遺骨などに加え、北

大が研究という理由で発掘

は、「北大のアイヌ民族の遺骨は80年代から返還や慰靈がどうか、実態調査を進めている。結果は公表されていないが、北海道博物館では文化財ではない39の遺骨が見つかり、外部の専門家による分析の結果、現時点でも5体がアイヌ民族のものである可能性が高い」と

が分かった。

5体は道内の郷土史家と

医師（共に故人）から、1

970年代～80年代に寄贈

された。当時の職員が、遺骨についてどのように認識

していたか不明だが、同時に持ち込まれた民具や医学書などの資料と一緒にまとめて保管されてきた。今回

の内部調査により、一部の

遺骨については、出土地域

や発掘時期が断片的に明ら

かになってきたが、発掘の

詳しい経緯は分からぬ。

した4体（4件）が含まれていた。研究の中心となつた医学部元教授の家族から、20年ほど前、民具などの資料とともに寄贈を受け書なども一緒にまとめて保管されてきた。今回

の内部調査により、一部の遺骨については、出土地域や発掘時期が断片的に明らかになつたが、発掘の詳しい経緯は分からぬ。

した4体（4件）が含まれていた。研究の中心となつた医学部元教授の家族から、20年ほど前、民具などの資料とともに寄贈を受け書なども一緒にまとめて保管されてきた。今回

の内部調査により、一部の

遺骨については、出土地域

や発掘時期が断片的に明ら

かになつたが、発掘の

詳しい経緯は分からぬ。

可能性が出てくる」と話す。

北海道博物館と函館博物

館は現在、尊厳ある慰靈の

ため、遺骨をぎり箱に移す

作業を急いでいる。

（東京報道 細川伸哉）

# アイヌ遺骨10施設にも

## 文科省調査 道内や東京国立博物館

研究目的などで持ち出されたアイヌ民族の遺骨が、伊達市噴火湾文化研究所や東京国立博物館など道内外の10施設にも保管されていることが30日、文部科学省の全国調査で分かった。北海道新聞の調べで今月上旬に判明した分と合わせて、大学以外には13施設に74体の遺骨が保管されていたことになる。このうち12施設が道内に所在。今後、大学保管の遺骨同様、慰靈や保管、返還などの扱いが議論となりそうだ。

新たに判明したのはほかに網走市立郷土博物館、苫小牧市美術博物館、釧路市埋蔵文化財調査センター、いしかり砂丘（北見市）、いしかり砂丘の風資料館（石狩市）、胆振管内豊浦町中央公民館、

渡島管内森町遺跡発掘調査事務所、上之国館調査整備センター（檜山管内上ノ国町）。文科省が昨年度から全国の博物館など約5千施設を対象に調査をしていた。

北海道新聞が道内的主要な博物館など35施設に聞き取ったところ、北海道博物館、市立函館博物館、臺灣市民俗資料館の3施設で16体の遺骨を保管していたことが分かっていた。

アイヌ民族の遺骨を巡つては、政府の調査で北大など全国12の大学で1636体の存在が確認されている。遺骨収集の方法、保管や慰靈のあり方が問題視されており、博物館などの遺骨についても、こうした点が問われる可能性がある。

政府は大学に保管されている遺骨について、身元が

分かるものは希望する遺族に返還する方針。分からぬものは胆振管内白老町に整備される「民族共生象徴空間」に集めて慰靈するか、埋葬されていた地域のアイヌ民族団体などへの返還を検討している。

北海道アイヌ協会の幹部は「入手ルートなどについて徹底的に調べ、適切な返還の道を探るべきだ」と指摘している。

# 遺骨の大半埋蔵文化財

## アイヌ民族新たに判明の10施設

文部科学省の調査で道内外の博物館など10施設で新たに判明したアイヌ民族の遺骨は、遺跡調査の際に発掘された事例が多く、大半が埋蔵文化財として認定されている。伊達市噴火湾文化研究所では地元のアイヌ民族に供養の儀式をしてもらい、新たに専用の保管室を設けた。ただ、中には入手した経緯が分からぬ遺骨も存在し、北大などで問題化しているのと同様に研究目的などで持ち込まれた可能性もある。

北海道新聞が10施設に聞き取ったところ計70体以上が遺骨を保管しており、一部の遺骨しかないと個体として特定できていないところもある。北海道新聞が今月上旬に調べて判明した分と合わせると、大学以外では13施設に100体前後が保管されているとみられ、このうち74体は個体が特定されている。

北海道新聞が10施設に聞き取ったところ計70体以上は2009と14年の遺跡調査で発掘された43体を埋葬する方法などからアイヌ民族の遺骨と認定。いずれも身元を特定できなかつたが、地元のアイヌ民族と協議して今年3月に慰靈もできる保管室を整備した。青野友哉学芸員は「子孫とみられる地元のアイヌ民族の人たちに寄り添つた対応をすることが大事だ」と語る。

伊達市噴火湾文化研究所所長の伊達市噴火湾文化財センター（檜山管内上ノ国町）や胆振管内豊浦町中央公民館など7施設の60体。ところ埋蔵文化財センター（北見市）の遺骨が鑑定を依頼した札医大にあるのを除き、いずれも施設内の収蔵庫などで保管している。

一方、東京国立博物館にある1体は関係書類から1957年以前から保管されてきたことは確認できたが、どのように保管するに至つたのかは不明。専門家にみてもらい、アイヌ民族の遺骨と推定しているが、遺骨は胆振管内白老町に整備される「民族共生象徴空間」に集めて廟壇するか、埋葬されていた地域のアイヌ民族団体などへの返還を検討している。地元での保管を最適と考えている施設が多いものの、東京国立博物館は「アイヌ民族の遺骨と特定されれば象徴空間に納めるのがふさわしいと思」うと話している。

道アイヌ協会関係者は「東京と網走の2体も昔の研究者が持ち込んだ遺骨かもしれない」とみている。政府は身元が分からぬ1本も11年に旧資料館を改装した際に見つかったが、

所有などが新たに判明した施設	伊達市噴火湾文化研究所	43体	2009、14年ごろの遺跡調査で発掘
釧路市埋蔵文化財調査センター	10体程度	7体は1963~92年の調査で発掘。残る数体は市民が小学校で発見	
いしかり砂丘の風資料館	数体	札幌アイヌ文化協会が1993年ごろに樺太アイヌの遺骨が埋まっているとされる場所を調べて発見	
上之国館調査整備センター	5体	1996~2008年の調査で発掘	
森町遺跡発掘調査事務所	3体	1980年代の調査で発掘されたとする資料があるが、所在は不明	
苫小牧市美術博物館	2体	1954、63年の調査で発掘	
網走市立郷土博物館	2体	1体は2003年の調査で発掘。別の1体は11年に旧資料館で発見	
東京国立博物館	1体	1957年以前から保管。専門家が2年前、アイヌ民族の遺骨とみられると鑑定	
豊浦町中央公民館	1体	2012年ごろの調査で発掘	
ところ埋蔵文化財センター	1体	1990年前後の調査で発掘。鑑定を依頼した札医大で保管している	

# 象徴空間の整備に向けたロードマップ

平成25年度  
(2013)

平成32年度  
(2020)

目標

全  
体

工程表

象徴空間のコンセプトを固める段階

ロードマップの詳細を詰める段階

整備・管理運営  
手法の検討  
文化伝承・体験交流活動等の検討

管理運営体制の準備  
(必要に応じ法整備)

詳細なプログラムの作成

博物館

基本構想

施設建設工事

展示設計

施設設計

開業準備

総合会議(平成32年度を目標)

公園的  
土地利用

基本計画

各種法手続  
建設工事

展示工事

施設設計

開業準備

アイヌ  
遺骨

集約の在り方の検討

集約施設の整備、遺骨の集約・保管・慰靈(条件の整つたものから随時返還)

返還手続(条件の整つたものから随時返還)

博物館等におけるアイヌの人々の遺骨及びその副葬品の  
保管状況等に関する調査結果

平成28年11月  
文部科学省

1. 調査の目的

アイヌ政策推進会議政策推進作業部会における審議を踏まえ、博物館等を対象に調査を実施した。

2. 調査の時期

平成27年8月に調査票を各博物館等へ発出し、平成27年12月25日を回答期限とした。その後の現地調査等の結果を踏まえて精査を行い、平成28年11月4日現在の状況を取りまとめた。

3. 調査の対象

国立博物館、都道府県・市町村立博物館及び民間の博物館等施設(5,558館)

※博物館のうち、動物園、植物園、動植物園、水族館は除いた。野外博物館については、北海道内ののみ調査を実施。

※北海道については、アイヌ関係資料を収集、保管している施設も調査を実施。

※国公私立大学、公私立短期大学及び大学共同利用機関法人に附属する博物館は除了。(「大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況調査」において調査済み。)

4. 遺骨を保管している博物館等の数と遺骨の数

・遺骨を保管している博物館等の数は12施設である。

(北海道博物館、市立函館博物館、網走市立郷土博物館、苫小牧市美術博物館、室蘭市民俗資料館、釧路市埋蔵文化財調査センター、ところ埋蔵文化財センター、いしかり砂丘の風資料館、豊浦町中央公民館、上之国館調査整備センター、伊達市噴火湾文化研究所、東京国立博物館)

・個体ごとに特定できた遺骨は76体である。

うち、個人が特定できる遺骨はない。

・個体ごとに特定できなかった遺骨が27箱に納められている。

## 5. 博物館等が保管に至った時期・経緯（個体ごとに特定できた76体）

### (1) 時期

昭和29年から平成26年までの期間に保管に至った遺骨が74体（約97%）ある。また、保管に至った時期が不明の遺骨が2体（約3%）ある。

### (2) 経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が67体（約88%）ある。また、寄贈等による遺骨7体（約9%）、博物館等が保管に至った経緯が不明の遺骨が2体（約3%）ある。

## 6. 発掘・発見された経緯等（個体ごとに特定できた76体）

### (1) 経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が67体（約88%）ある。また、発掘・発見された経緯が不明の遺骨が9体（約12%）ある。

### (2) 発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が65体（約85%）、個人が7体（10%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が4体（約5%）ある。

### (3) 発掘・発見された場所

北海道が71体（約93%）あり、発掘・発見された場所が不明な遺骨が5体（約7%）ある。

## 7. 博物館等に保管されている遺骨の状況（個体ごとに特定できた76体）

### (1) 遺骨の部位

全身骨が49体（約64%）、頭骨が15体（約20%）、四肢骨等が4体（約5%）、頭骨・四肢骨の一部6体（約8%）その他（歯など）が2体（約3%）ある。

### (2) 遺骨の帰属年代

江戸時代以前の遺骨が63体（約83%）あり、江戸時代頃から明治時代の遺骨が3体（約4%）ある。帰属年代が不明の遺骨が10体（13%）ある。

### (3) 副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は64体(約84%)ある。

### (4) 展示の有無

展示されている遺骨はない。副葬品については、一部展示されているものがある。

### (5) 遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が19体(約25%)あり、紙製の箱に保管されている遺骨が44体(約58%)、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が13体(17%)ある。

### (6) 文化財の認定の有無

文化財の認定の有る遺骨が62体(約82%)あり、無い遺骨が14体(約18%)ある。

## 8. 個体ごとに特定できなかった27箱について

### (1) 博物館等が保管に至った時期・経緯

#### ①時期

昭和23年から平成6年までの期間の20箱(約74%)がある。また、博物館等が保管に至った時期が不明の7箱(約26%)がある。

#### ②経緯

地方公共団体等による発掘調査により出土した遺骨が2箱(約8%)、寄贈等による遺骨が6箱(約22%)、その他が6箱(約22%)、博物館等が保管に至った経緯が不明の遺骨が13箱(約48%)ある。

### (2) 発掘・発見された時期・経緯等

#### ①時期

戦前において発掘・発見された遺骨が7箱(約26%)あり、戦後において発掘・発見された遺骨が12箱(約44%)ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が8箱(約30%)ある。

#### ②経緯

工事や地質調査等に伴う遺骨が5箱(約19%)、発掘調査の結果発見

された遺骨が6箱(約2.2%)あり、不時発見された遺骨が1箱(約4%)ある。発掘・発見された経緯が不明の遺骨が15箱(約5.5%)ある。

### ③発掘・発見主体

地方公共団体等が発掘・発見した遺骨が2箱(約7%)、個人が2箱(約7%)、その他が7箱(約2.6%)、発掘・発見した主体が不明の遺骨が16箱(約6.0%)ある。

### ④発掘・発見された場所

北海道が16箱(約5.9%)あり、千島列島が5箱(約1.9%)、樺太(サハリン)が1箱(約4%)、発掘・発見された場所が不明の遺骨が5箱(約1.8%)ある。

## (3) 博物館等に保管されている遺骨の状況

### ①遺骨の部位

全身骨が2箱(約7%)、頭骨が16箱(約6.0%)、四肢骨等が3箱(約1.1%)、その他(歯など)が6箱(約2.2%)ある。

### ②遺骨の帰属年代

江戸時代以降が2箱(約7%)、江戸時代頃から明治時代の遺骨が7箱(約2.6%)ある。帰属年代が不明の遺骨が18箱(約6.7%)ある。

### ③副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が9箱に納められている。地方公共団体により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

### ④展示の有無

展示されている遺骨及び副葬品はない。

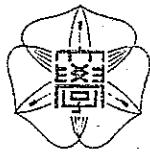
### ⑤遺骨の保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が16箱(約6.0%)、紙製の箱に保管されている遺骨が9箱(約3.3%)、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が2箱(約7%)ある。

⑥遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨はない。

施設名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
	うち、個人が特定できる遺骨		
北海道博物館	7体		
市立函館博物館			25箱
網走市立郷土博物館	2体		
苫小牧市美術博物館	2体		
室蘭市民俗資料館	7体		
釧路市埋蔵文化財調査センター	7体		1箱
ところ埋蔵文化財センター	1体		
いしかり砂丘の風資料館			1箱
豊浦町中央公民館	1体		
上之国館調査整備センター	5体		
伊達市噴火湾文化研究所	43体		
東京国立博物館	1体		
計 12施設	計 76体		計 27箱



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY

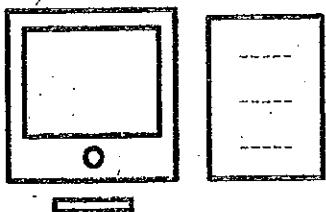


北海道公立大学法人  
札幌医科大学  
Sapporo Medical University

北海道大学及び札幌医科大学では、  
身元が判明したアイヌ民族のご遺骨を、  
ご遺族にお返しする手続を開始しました。

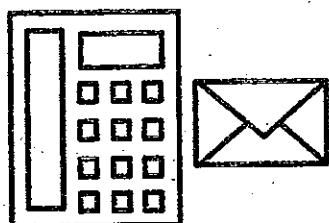
## ◆身元が明らかなご遺骨の返還手続（概要）

### (1) 身元が明らかなご遺骨に関する情報の確認



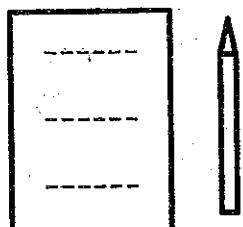
北海道大学または札幌医科大学のホームページ等で身元が明らかなご遺骨に関する情報の確認をお願いします。

### (2) ご遺骨の保管の有無の確認



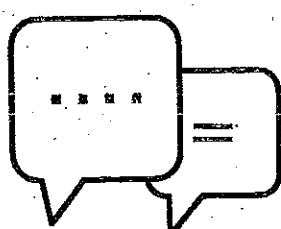
情報を確認して、返還を希望される方（ご遺族等）は、北海道大学または札幌医科大学までお問い合わせください。

### (3) 請求書類等の提出



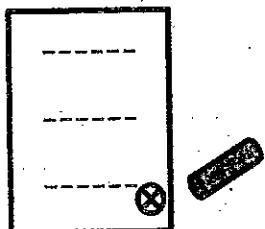
お預かりしているご遺骨が、返還を希望されるご遺骨であった場合、ご遺族であることを確認するための書類等をご提出していただきます。

### (4) 他のご遺族からの返還請求の有無の確認



ご遺骨に対して返還請求があつたことを公表し、他のご遺族からの請求がないか確認します。確認期間は1年間です。

### (5) 収還の詳細に関する契約の締結



ご遺骨を返還する方が決まりましたら、北海道大学または札幌医科大学との間で返還の場所、日時、方法、費用等について話し合い、返還に係る契約を結びます。

### (6) ご遺骨の返還

契約に基づいて、ご遺骨を返還します。

## ◆北海道大学：身元が判明したご遺骨に関する情報

	1) 発掘・発見された時期	2) 発掘・発見された場所	3) 性別	4) 年齢	5) 副葬品	6) その他参考事項
1	昭和6年9月4日	北海道浦河郡浦河町杵臼	女	30-40代	無	・大正15年没 ※現在、返還の申し出がなされていますので、返還を希望する方は平成29年9月30日までに請求をしてください
2	昭和6年9月5日	北海道浦河郡浦河町杵臼	男	40-50代	無	※現在、返還の申し出がなされていますので、返還を希望する方は平成29年9月30日までに請求をしてください
3	昭和6年9月6日	北海道浦河郡浦河町杵臼	男	20-30代	無	※現在、返還の申し出がなされていますので、返還を希望する方は平成29年9月30日までに請求をしてください
4	昭和6年9月4日	北海道浦河郡浦河町杵臼	男	30歳以上	無	・大正13年没 ※現在、返還の申し出がなされていますので、返還を希望する方は平成29年9月30日までに請求をしてください
5	不明	北海道浦河郡浦河町野深 (旧浦河郡荻伏村野深)	男	40代	無	
6	不明	北海道浦河郡浦河町東幌別	男	50歳以上	無	
7	昭和6年	北海道浦河郡浦河町東幌別	男	30-40代	無	
8	昭和8年10月28日	北海道沙流郡平取町貫気別 (旧沙流郡平取村大字上貫気別村)	男	70代	無	・本籍：新冠郡元神辺村 ・昭和5年埋葬
9	昭和8年10月28日	北海道沙流郡平取町貫気別 (旧沙流郡平取村大字上貫気別村)	男	40代	無	・本籍：新冠郡元葛柳村 ・大正12年埋葬
10	昭和8年10月28日	北海道沙流郡平取町貫気別 (旧沙流郡平取村大字上貫気別村)	男	20代	無	・本籍：新冠郡元葛柳村 ・大正9年埋葬
11	昭和8年10月28日	北海道沙流郡平取町貫気別 (旧沙流郡平取村大字上貫気別村)	女	20代	無	・本籍：新冠郡元葛柳村 ・大正14年埋葬

	1) 発掘・発見された時期	2) 発掘・発見された場所	3) 性別	4) 年齢	5) 副葬品	6) その他参考事項
12	昭和8年10月28日	北海道沙流郡平取町貫気別 (旧沙流郡平取村大字上貫気別村)	男	60代	無	・本籍：新冠郡元葛柳村 ・昭和2年埋葬
13	昭和8年10月28日	北海道沙流郡平取町貫気別 (旧沙流郡平取村大字上貫気別村)	女	40代	無	・本籍：新冠郡姉去村 ・昭和5年埋葬
14	昭和8年10月26日	北海道沙流郡平取町荷負 (旧沙流郡平取村大字荷負村)	女	70代	無	・本籍：日高荷負村ホビボエコタン ・明治42年埋葬
15	昭和8年10月26日	北海道沙流郡平取町荷負 (旧沙流郡平取村大字荷負村)	女	40代	無	・本籍：日高荷負村ホビボエコタン ・明治31年埋葬
16	昭和11年8月1日	樺太島 (旧樺太豊栄郡栄浜村相浜)	男	50歳以上	無	

平成28年9月30日

### ◆札幌医科大学：身元が判明したご遺骨に関する情報

	1) 発掘・発見された時期	2) 発掘・発見された場所	3) 性別	4) 年齢	5) 副葬品	6) その他参考事項
1	1966年	北海道千歳市 駒里アイヌ墓地	男	成人	無	・1966年にご遺族からの献骨により受入 ・1から4のご遺骨は親類関係 ・本籍：勇払郡厚真村
2	1966年	北海道千歳市 駒里アイヌ墓地	女	成人	無	・上記と同じ
3	1966年	北海道千歳市 駒里アイヌ墓地	男	成人	無	・上記と同じ
4	1966年	北海道千歳市 駒里アイヌ墓地	女	成人	無	・1966年にご遺族からの献骨により受入 ・1から4のご遺骨は親類関係

\*1 本表は、北海道大学及び札幌医科大学が保管しているアイヌの人々の遺骨のうち、個人が特定された（身元が判明した）遺骨に関する情報について、「個人が特定されたアイヌ遺骨等の返還手続に関するガイドライン」（平成26年6月）に基づいて公開するものです。

\*2 本表の無断転載及び再配信等は一切お断りします。

参考

H29 11月 予定

平成28年度

# アイヌ文化普及啓発セミナー 【帯広会場】開催の御案内

開催日時 平成28年11月25日(金)～11月26日(土)

会 場 帯広百年記念館

(帯広市緑ヶ丘2番地 電話: 0155-24-5352 代)

アイヌ民族は、日本列島北部周辺とりわけ北海道に先住し、独自の文化を有する先住民族です。このたび、アイヌの歴史やアイヌ文化に関して興味関心をお持ちの方や学校教育・社会教育関係者を対象としたセミナーを開講します。

セミナーでは、2日間にわたって3つの多角的な講座を実施いたします。

皆さまのご参加を心からお待ちしております。

## 開 講 日 程

日 時	講 座 内 容
① 11月25日(金) 18:30 ～ 20:00	近世蝦夷地から広がる輸出商品の流通世界 —ナマコ・アワビ・コンブ・ラツコ— 菅原 廉郎 (小樽市総合博物館学芸員)
	アイヌの人たちによって収穫されたコンブやアワビなどの蝦夷地産品は、長崎貿易（江戸幕府の直轄地長崎を通じて行われた対外貿易）を維持するという極めて重要な役割を果たしました。今回は、こうした江戸時代の蝦夷地から海外へと広がるグローバルな商品流通のネットワークを紹介します。
② 11月26日(土) 13:30 ～ 15:00	アイヌ文化における酒とタバコ 関根 達人 (弘前大学人文社会科学部教授)
	和人とアイヌの関係を物語るものとして酒とタバコは非常に重要です。アイヌの人々は、基本的に内地で生産された酒やタバコ、キセルを交易などにより入手していました。和人は、酒やタバコをアイヌの人々との関係性を円滑化し、交易を有利に導くための道具として利用していました。
③ 11月26日(土) 15:10 ～ 16:40	ハボレカの心を受け継いで 酒井 奈々子 (帯広カムイトウウポポ保存会会長)
	身近にいた工カシやフチからアイヌの精神や伝統を受け継ぎ、帯広を中心としたアイヌ文化の伝承・普及に尽力されてきました。北海道内外問わず全国各地でアイヌ文化の伝承者として活発な活動を行う講師に、帯広カムイトウウポポ保存会の活動や後継者の育成についての思いを伺います。

\*アイヌ文化普及啓発セミナーは、道民カレッジ「ほっかいどう学コース」、帯広市民大学講座に連携登録しております。

主 催／公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構

共 催／帯広百年記念館

後 援／北海道教育委員会、帯広市、帯広市教育委員会、公益社団法人北海道アイヌ協会

平成28年度 アイヌ文化普及啓発セミナー〈帯広会場〉  
受講申込書

ふりがな 氏名			男・女				
ご連絡先 (受講票等送付先)	〒						
電話番号	――						
ご職業		連携講座受講希望 (受講希望の講座に□を記入して下さい)	<input type="checkbox"/> 道民カレッジ 「ほっかいどう学」コース <input type="checkbox"/> 帯広市民大学講座				
受講希望の日 (○を付けてください)	( ) 講座①11月25日(金) 18時30分～ ( ) 講座②11月26日(土) 13時30分～ ( ) 講座③11月26日(土) 15時10分～		<table border="1"> <tr> <td>受付</td> <td>番号</td> </tr> <tr> <td>月</td> <td>日</td> </tr> </table> <p>(この欄は記入しないでください)</p>	受付	番号	月	日
受付	番号						
月	日						

会場 帯広百年記念館

帯広市緑ヶ丘2番地 (電話: 0155-24-5352 ㈹)

**申込方法** 受講申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送またはFAXによりお申し込みください。  
 また、ホームページ (<http://www.frpac.or.jp>) でも受け付けています。  
 お申込みいただいた方には、先着順で受講票を発送いたします。  
 なお、定員になりしだい締め切りとさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

**申込先** 公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構  
 〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 ブレスト1・7(5階)  
 TEL 011-271-4171  
 FAX 011-271-4181

**定員** 各講座50名

**受講料** 無料

会場略図

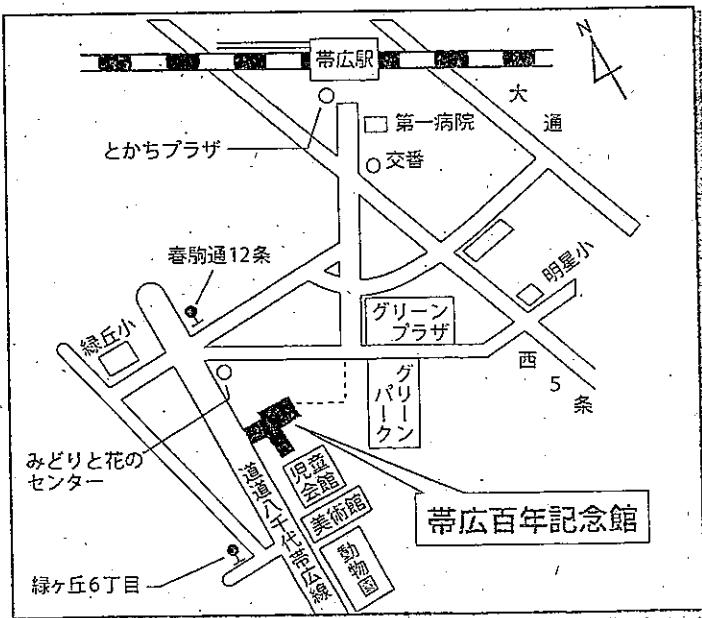
帯広百年記念館

バス

- 帯広駅バスター・ミナル2番乗り場より(約15分)
- ★拓殖バス:「南商または帯広の森・白樺学園線」  
⇒「緑ヶ丘6丁目」下車、徒歩8分
- ★十勝バス:「南商・西23条行き」  
⇒「春駒通12条」下車、徒歩7分

タクシー

- 帯広駅南口より約10分



## ■図書館整備に係る添田家文書の再整理について

### 1、概要

明治期に蘭北地域に入植した仙台藩角田領の重臣（開拓助勤）添田龍吉資料のうち、古文書類は、主に幕末から明治期における開拓の経緯や室蘭郡の政治・経済・文化・社会全般に関する史料群である。室蘭地方史研究会による分類整理がなされ、平成3年9,144点が添田家より市に正式に寄贈された。

平成10年には、そのうち7点を市指定文化財第4号の「仙台藩角田領添田家関係資料」（古文書）として指定し、それ以外の文書物件も含め、図書館で保管・活用してきた。平成32年を予定している図書館の合築整備に併せて、これらの再整理を要している。

### 2、添田家文書に係る課題

- 公開未了 目録未公表、検索システム未登載
- 既整理資料（9,144点、市指定含む） 劣化防止措置が未了
- 未整理資料 目録掲載外の資料の存在（複数箱の段ボール詰め、内容不明）

### 3、対応の方向性と手順

- 公開未了 既存目録のデジタル化（うち直し）、検索システム登載  
地方史研究会による翻刻原稿のうち直し（基礎資料として活用）
- 既整理資料 保存 文書保存用の中性紙封筒等に入れ替え、収蔵環境適正化  
公開 初期的な利用に対応できるよう複写データ作成公開
- 未整理資料 綱羅的な把握、整理分類・カウント、概要の目録化、収蔵

### 4、整理作業

H29から図書館職員とともに検討・実施  
整理実務には、行政だけではなく室蘭地方史研究会のご協力をいただく予定

### 5、参考

#### 新館後の管理活用（見込）

- 展示 閲覧室と一体の郷土資料スペースに、展示ケース等を設け公開
- 保存 閉架書庫内で、より適正な保存管理を行う
- 活用 目録等の公表、複写コピーなどで利便性を確保

### 6、その他

「本多新資料」についても、同様の措置を実施予定

## 添田家文書収蔵状況



3階郷土資料室のキャビネット内に保管



登録件名ごとに封筒管理



未整理資料（9,144点以外の資料）



参考：本多新資料

## 添田家史料一覧表

平成2年11月27日  
室蘭地方史研究会調

大分類	番号	中分類項目	項	点数	備考
公文書	01 02 03 04 05	法規・規約・裁判所 願書・申請書・建白書 通知書・任命書 表彰状・感謝状 履歴書・公用綴りその他	1 2 3 4 6	43 158 16 44 696	957
一般文書	01 02 03	維新前文書 明治文書 大正・昭和文書	7 10 12	158 116 108	382
日記	01	日記・手帳	13	32	32
書簡 (手紙・はがき)	01 02 03	龍吉あて書簡 欽允あて書簡 龍男あて書簡その他	14 15 18	194 701 29	924
政治	01 02 03	皇室 国・道・市政等 各種選挙	19 20 25	55 177 71	303
土地関係	01	土地関係	26	1,187	1,187
経済	01 02 03 04 05 06 07 08	当座帳・大福帳など 石川家関連 勸業銀行関連 契約積金関係 領収書類(1) 領収書類(2) 経済一般 雑件	33 35 36 40 42 44 48 51	50 34 255 41 434 1,073 363 15	2,265
産業	01 02 03 04 05 06	農業および関連 水産 牧畜・養蚕 林業・園芸 塩・煙草専売 会社	52 55 59 62 63 64	158 142 105 31 23 197	656
教育・学事	01	教育・学事	69	40	40
衛生・医療	01	衛生・医療	71	33	33
戦時・防空	01	戦時・防空	72	36	36
図書	01 02 03 04 05	一般教養 実用 謡曲・俗曲 人情本・軍記物 詩歌その他	74 77 78 81 82	114 34 126 64 78	916
地図・案内 写真など	01 02 03	地図 案内 写真(絵はがき含む)	84 86 87	62 51 266	379
作品等	01 02 03	書 絵画 詩歌など作品	88 89 89	160 25 52	237
新聞	01 02	新聞 新聞類似出版物	90 90	512 66	578
その他文書	01	雑件その他	91	151	151
物品	01	物品	92	68	68
合計				9,144	

## 大分類 文書

11. 01

## 中分類 法令・規則・裁判所関係

番号	件名	年月日	枚数	備考
<b>② 法令</b>				
001	北海道国有未開地取引移住規則	明治34年	1	
002	農業關係法	大正11年	1	
003	煙草及大氣取扱所取締規則	昭和4年	1	
004	民事訴訟法の実施規則	" "	1	
005	企業許可全廻除法規	" 16年	1	
<b>③ 土族同盟等規則・中合会</b>				
006	室蘭土族盟規則	明治18年	1	
007	怨親会取締規則	" (?)	1	
008	室蘭土族同盟規則	" 23年	1	石川系由来付
009	"	" " 11月	1	更生
010	栗原中合会並人名簿	029年	1	本縣西自治会
011	保石会規則	" 30年代	10	地
<b>④ 裁判所関係</b>				
012	船主登記簿	明治40年	2	
013	裁判所關係事類	" 不明	1	取扱(保管)別に方正化
*014	北海道海湖沼埋立規則	明治争内	1	
015	裁判所文書類	" 36年	4	
016	" 同連書簡	" 11月10日	1	元源共20種類書類
017	" 關係領取書類	" 10月~11月	7	
018	鑑定書	" 45年3月29日	1	洋向鑑定書
019	書類不備17項再提出	" 45年3月30日	1	相應地分類別に領兎
020	警察法規類要	1893年	1	
021	鑑定書 12: 清水吉	明治39年1月9日	4	
20件			28	
			2	
			43	

## 大分類 公文書

① 願(陳情)・申請書等

コード①：伺書

(中分類コード 02)

02 ②：願・陳情・申請書等

③：建議

11

## ④：伺書

001 室蘭郡地所引渡し付、伺書

明治2年

1 室蘭市、佐賀十三郎

## ⑤ 願・陳情・申請書等

002 知行地戻し依頼(許可) 天保12 3 八戸町山田五右衛門

003 知行地戻し願(下書) 明治2年 1 山田保

004 道路改良(儀)延期願 22年 1 道路会議より道行保管  
函山頭印、  
経理大臣005 请願事草案(省議削減による新律案) 24年 3 銀河郡  
火集代出  
地方正義へ  
送り大正

006 北海道施設更革の儀(2) 请願書 24年 1 草案

007 朝鮮東復要挙起に付 義勇兵志願 27年 1 傷勢甚大、要報了

008 日主石川光魏行賞之儀 願 28年 1 忠義、忠告  
経理大臣  
甲子領充、道行長官009 戸長役陽の設儀 请願 30年 1 海日領充、道行長官  
外52、原保大江へ

010 不景氣整理公債証券下付願 31年

## (1) " 理由書(草案)

(2) " (済書・字) "

(3) " 产籍謄本 证明願 89 丙子之助多 20

(4) " 委任狀 8

(5) " 产籍 证明 20

(6) " 表明書 1

011 陳情文 35年 4 室蘭市上野、室蘭会議  
室蘭市役員、日野又輔

012 陳情文に対する感謝状 36年 1

013 公有水面 使用願 36年 1

014 未開地貸付願(履歴書・却下事件) 39年 1 佐竹義治

015 弥兩升字奥ワニ万5千坪山領事 年代不明 1 稲荷外工事部長会議  
室蘭市役員

016 寺跡西停車場(公衆便報取扱請願書) 1910年 1

017 共同作業場産業奨励金 申請書 17年 1

018 本郷西小堀市陽山領事 11 理由書、地圖書在中

## ⑥ 建議

019 室蘭港海底設備促進建議案 大正14年 1 室蘭市議会議長今田寅次郎

020 室蘭港海底設備促進建議案 15年 1 代議士 栗林五朗

追加

021 賃下地の境界丈量及請願書 明治24年3月 1 領田市十河山  
領田瑞八

022 本郷西停車場設置請願書 大正14年 1

22件 168

# 室蘭市指定文化財台帳

指定番号	第4号の3
指定年月日	平成10年5月7日
名称	仙台藩角田領添田家関係資料
区分	有形文化財
所有者	室蘭市
現在の場所	室蘭市本町2丁目2番5号 市立室蘭図書館
概要	<p>7点</p> <p>「開拓方記録」「手控え」「土地開拓簿籍」「輪西留」      「移住家臣団盟約書～光親公を迎える人員盟約、輪西村人民契約書」「輪西氷積み出し図絵」「欽允日記（1）日省簿」</p>

特徴・指定理由等 の概要	<p>戊辰戦争の敗北により、所領を失った仙台藩角田領主石川邦光は、北海道開拓を願い出て胆振国室蘭郡を受け、当時小姓頭だった添田龍吉ら家臣が来道し、明治3年、現在の石川町、本輪西町、知利別町等一帯に入植した。</p> <p>開拓助勤の命を受けた添田龍吉は、本輪西神社一帯の開墾に着手したが、農耕のみに依存せず、製塩、製糸、製氷、製鋼、養蚕業、鋳造場等をおこし、生涯を通じて室蘭開拓の事業に従事した。</p> <p>添田家古文書は、平成3年に添田家から室蘭市に寄贈された「添田家資料(9,144点)」のうち、室蘭郡開拓の経緯や明治時代前半における室蘭郡の政治・経済・文化・社会全般に関するもので、民族資料として最も適当と思われるもの7点である。</p>
変更の事項	

市立病院側

市道幸町4条通線

BM・出入り口

3.75m

24.59m  
40m  
リサイクル区

1/15

1/20

2.60

BM

開放式  
駐車場

バス停

▲  
バス INPUT

▲  
バス OUTPUT

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

●  
2.35

(仮称)室蘭市環境科学館・市立室蘭図書館新築基本設計(草案)

配置図

石本・はんざき設計共同企業体

※市道中央・舟見通線は、今後の設置等により変更の可能性がある。

A3 1:500

追直流洗刷

凡例

▲ 人の出入口  
▲ 車の出入口  
■ 駐車場  
● 2.65  
▲ 2.65  
▲ 2.65

▲ 人の出入口  
▲ 車の出入口  
■ 駐車場  
● 2.65  
▲ 2.65  
▲ 2.65

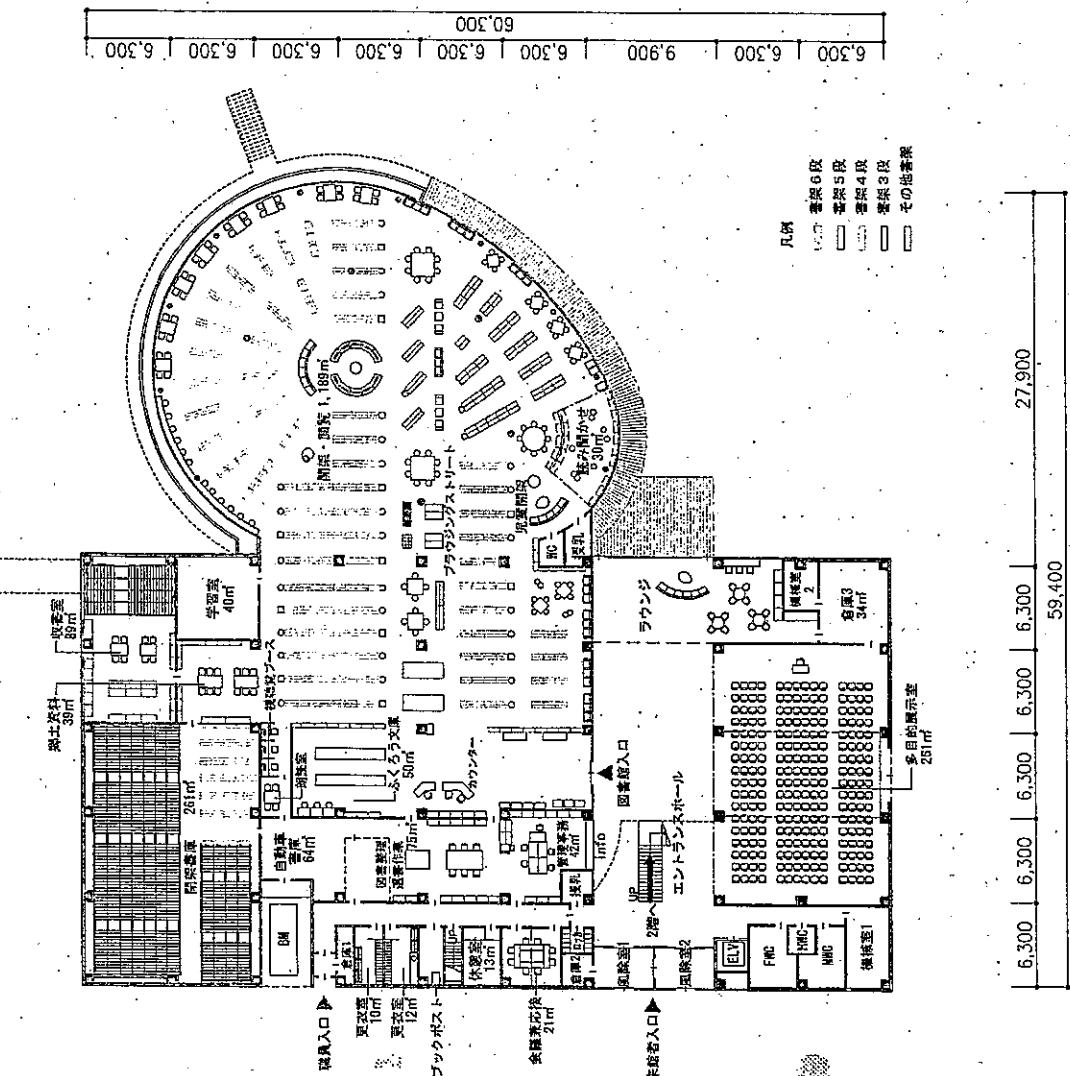
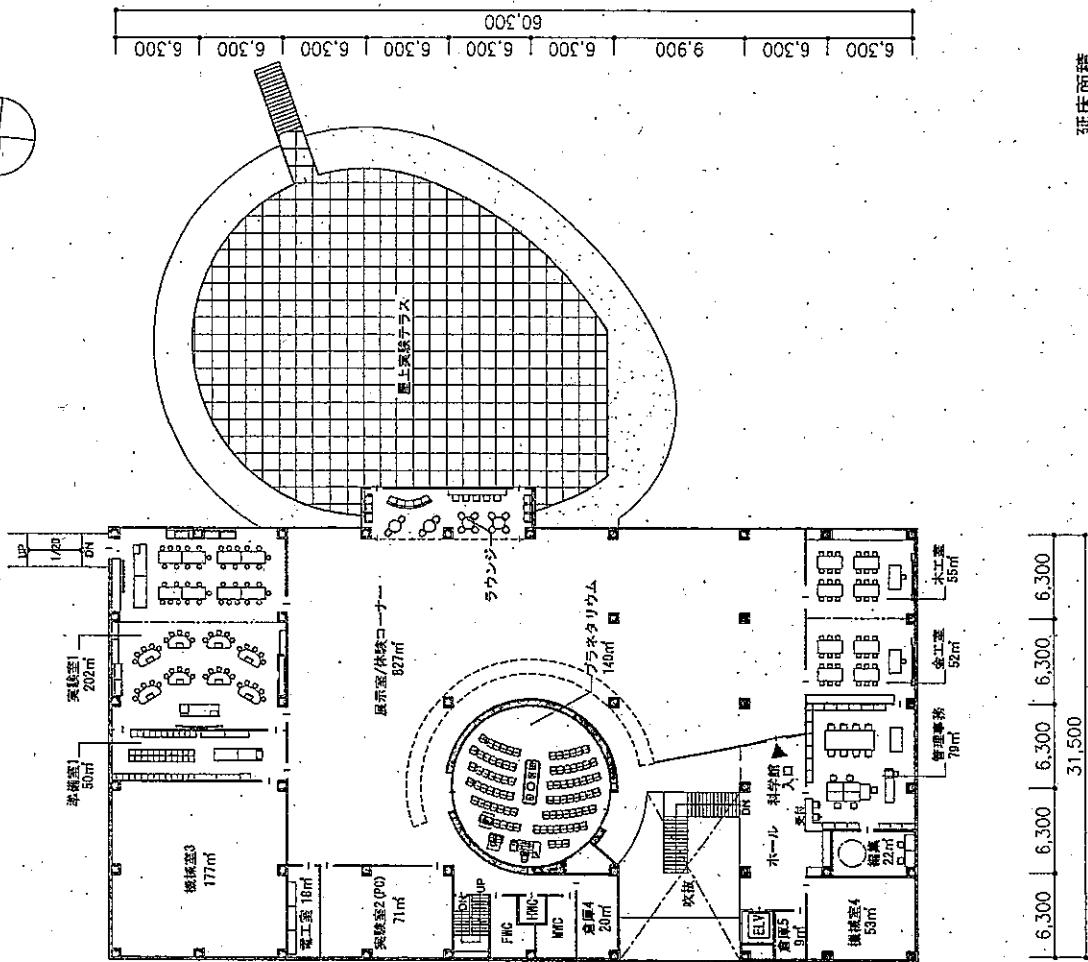
▲ 人の出入口  
▲ 車の出入口  
■ 駐車場  
● 2.65  
▲ 2.65  
▲ 2.65

市役所側

延床面積  
1階 2,752m<sup>2</sup>  
2階 1,916m<sup>2</sup>  
屋上階 27m<sup>2</sup>  
合計 4,695m<sup>2</sup>

※家具・建具は現段階の案であり、今後詳細検討を行つ。

2階平面図



1階平面図

石本・はんざき設計共同企業体

平面図 1 A3 1:400

(仮称)宇都宮市環境科学館・市立宝町图书馆新築基本設計(案)

## ■蒸気機関車移設と旧室蘭駅舎の活用について

### 1、概要

「旧室蘭駅舎」は、明治45年築とされる現存道内最古の木造駅舎。平成11年には国の登録有形文化財登録を受けている（ほか北海道準鉄道記念物指定）。石炭積出し港としての発展を契機とし、製鐵・製鋼業が勃興し現在に至る明治以来のこの地域の歩みを、鉄道とともに明確に位置づけるため、旧駅舎隣接地に、現在科学館にある蒸気機関車を移設し、一体的な活用を進めたい。

### 2、物件諸元

#### ○旧駅舎

明治45年築 室蘭駅として三代目となる駅舎（平成9年まで供用）

入母屋造、漆喰壁、がんぎなど、明治期の建築様式

昭和50年12月14日 旅客蒸気機関車最終便の発車駅

平成11年 国登録有形文化財登録、現在室蘭観光協会による指定管理

#### ○蒸気機関車 D51 560号

昭和15年11月12日、苗穂工場製 全長12.18m・重量78.37トン

主な運行路線 函館・室蘭・宗谷本線

昭和50年3月 旧国鉄より無償貸与（現所有者JR北海道）

現在、青少年科学館において実用産業技術を示す物件として屋外展示

### 3、旧駅舎の整備活用

現状の課題 駅・鉄道に由来するソフト事業がない

鉄道展示あるも位置づけが不十分（展示構成不明、解説なし）

バス待合、観光案内機能との両立を要する

方向性 蒸気機関車にあわせ、鉄道・駅舎に由来するソフト事業を実施

既存機能を維持しつつ、展示構成を見直し、解説パネル等を整備し、統一的な展示にする（構成案別紙）

### 4、蒸気機関車の活用

旧駅舎隣接敷地へ移設

上屋等の整備 旧駅舎と景観上調和する整備を要する

ソフト事業の展開

### 5、スケジュール

H29 上屋の設計、活用策等の検討（展示替え等一部先行実施）

H30 蒸気機関車移設、上屋等整備

## ○展示構成(案)

### 1、石炭が近代化に果たした役割と室蘭で鉄道が引かれる経緯

趣旨 明治期になってからの石炭開発、産炭地からの輸出や  
日本の近代化を支えるため、いち早く鉄道が引かれた経緯を周知  
資料 説明パネル、産炭地地図、石炭実物など

### 2、石炭積出港としての発展

趣旨 鉄道が引かれてからの当時の港湾施設や街並み、仕事などの周知  
資料 古写真、街並みの変遷図など  
(石炭運搬体験コーナー)  
パイスケ（竹籠・天秤棒からなる運搬用具）で、当時の石炭運搬方法・重量  
感などを体験 必要機材：パイスケ（複製）・石炭

### 3、室蘭駅の変遷と現在の旧駅舎

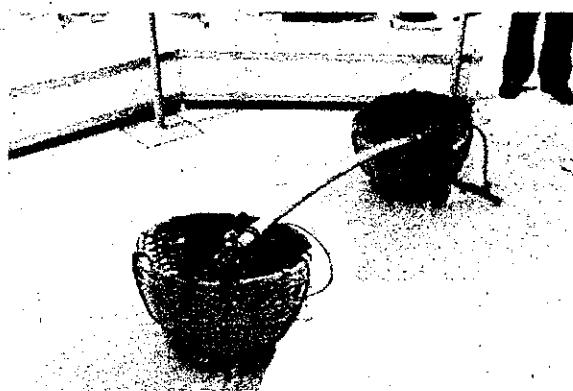
趣旨 特に現在の旧駅舎の建物としての価値を周知  
資料 古写真（戦前からの変遷）、駅舎模型、国登録有形登録証ほか

### 4、駅で使われた道具

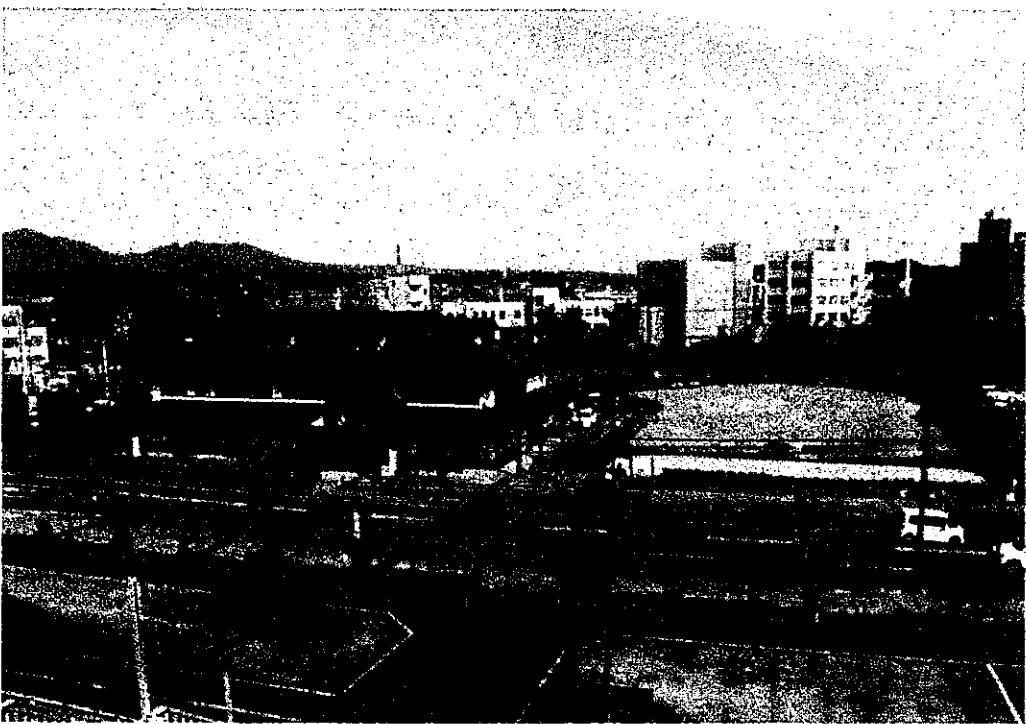
趣旨 営業していたころの駅舎で、行われていた作業を周知  
資料 鉄道用品 駅銘板（サボ）、切符、カーバイドランプ  
(写真撮影コーナー)  
国鉄駅員の制服を着て写真撮影ができるコーナー  
必要機材：制服・制帽（複製、昭和40年代ごろか）

### 5、室蘭で受け継がれる鉄道のDNA

趣旨 現在も鉄道・SLが室蘭に必須の存在であることを示す  
展示資料 140-90年の折の記録写真・記念品など  
S50科学館 SL移設、H30移設経過、維持管理イベント



パイスケ（石炭運搬用具）



旧室蘭駅舎と周辺敷地の現況



科学館に展示しているD51-560号機

# 旧絵画両小学校 を文化財指定に

登録有形文化財の朝日小学校 観察

1929.2.23

市文化財委員会

吉田 委員 指導參

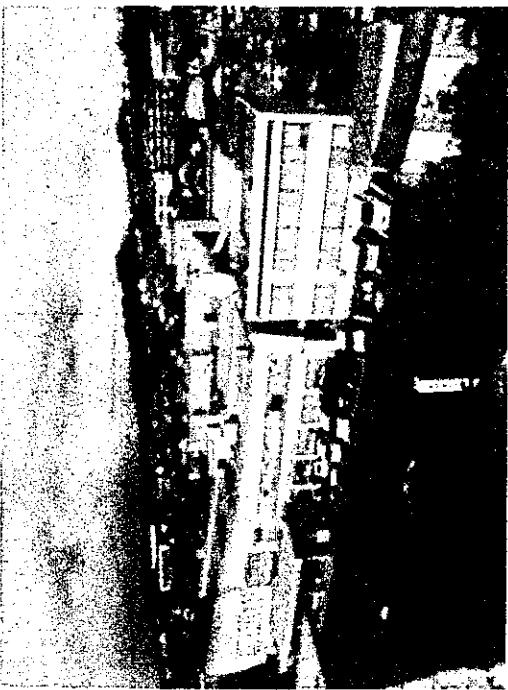
# 坂本町

**位置** 三重県北部 北に桑名、南に四日市、東に伊勢湾を望む田園と接する

**産業** 昭和16年に芝浦製作所の進出により工業のまちとして発展

**人口** 昭和30年約1000世帯5000人だったが、丘陵地の開発により、近隣都市のベッドタウンとして 平成28年約3900世帯10000人と 増加傾向にある。

**町役場** 坂本鹿名夫設計による



# 中華人民共和国の教育

THE EDUCATION OF THE PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA

中華人民共和国は、教育を重視する國である。教育は、國家の前途命运に直接關係する大事である。教育は、國家の富強と人民の幸福のための重要な手段である。教育は、國家の前途命运に直接關係する大事である。教育は、國家の富強と人民の幸福のための重要な手段である。



中華人民共和国は、教育を重視する國である。教育は、國家の前途命运に直接關係する大事である。教育は、國家の富強と人民の幸福のための重要な手段である。教育は、國家の前途命运に直接關係する大事である。教育は、國家の富強と人民の幸福のための重要な手段である。

中華人民共和国は、教育を重視する國である。教育は、國家の前途命运に直接關係する大事である。教育は、國家の富強と人民の幸福のための重要な手段である。教育は、國家の前途命运に直接關係する大事である。教育は、國家の富強と人民の幸福のための重要な手段である。

吉川小学校

あゆみ

明治5年 学制制定により学校教育開始

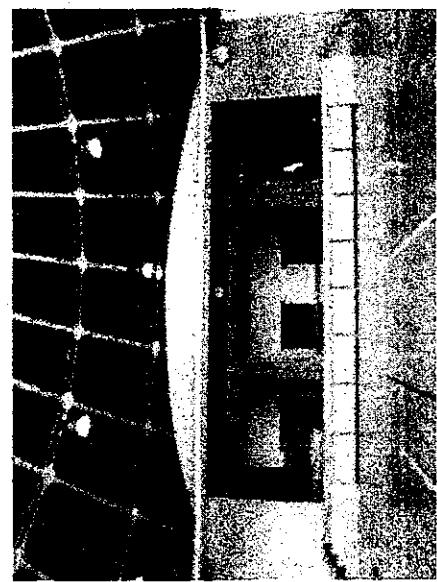
昭和37年5月 坂本鹿名夫氏設計による

円形校舎と矩形校舎の落成

平成 15年 地震耐震工事施工

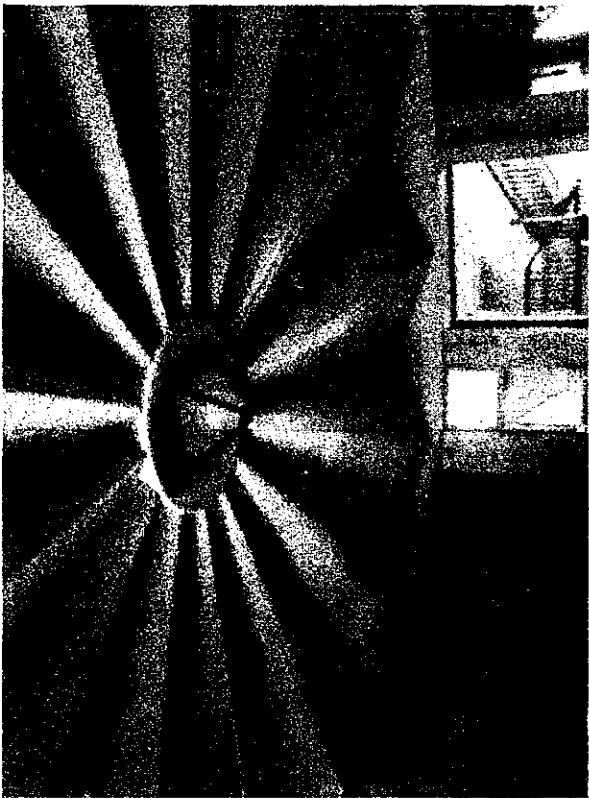
平成 19年 行政主導による

国の登録有形文化財として登録



# 文化財指定を受ける建物

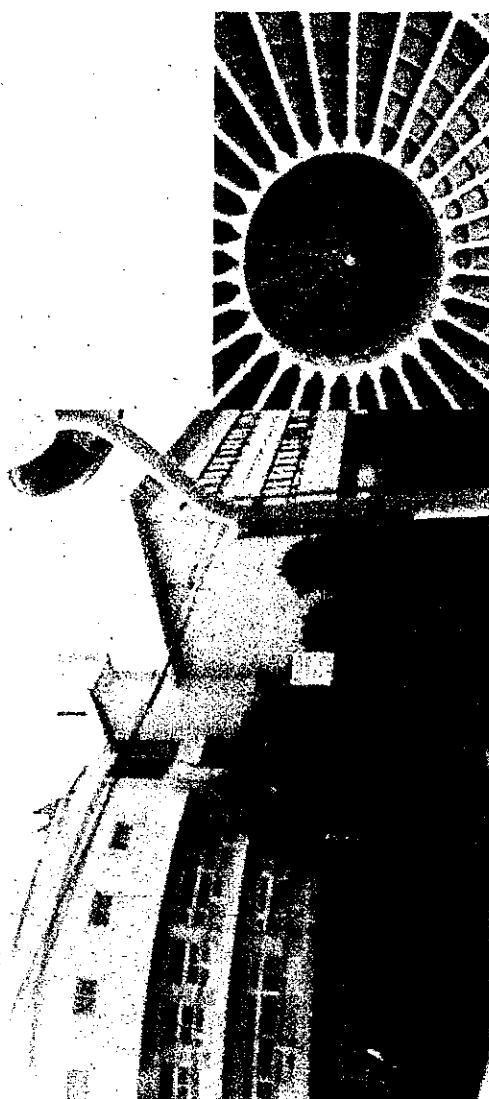
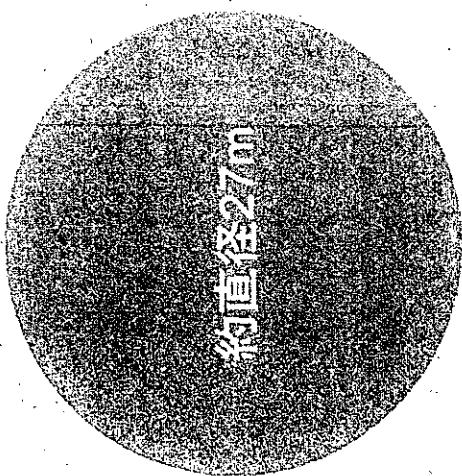
- ・ 前前町長の遺し、文化的価値を根付かせたいという思い
- ・ 町に唯一の小学校 現役で使用している
- ・ 建物50周年のイベントの際に 県の方から 登録有形文化財指定を受けけるような建物の有無の確認で、町として、小学校を推薦



# 新日本学校

円形部分は特別教室で構成されている。

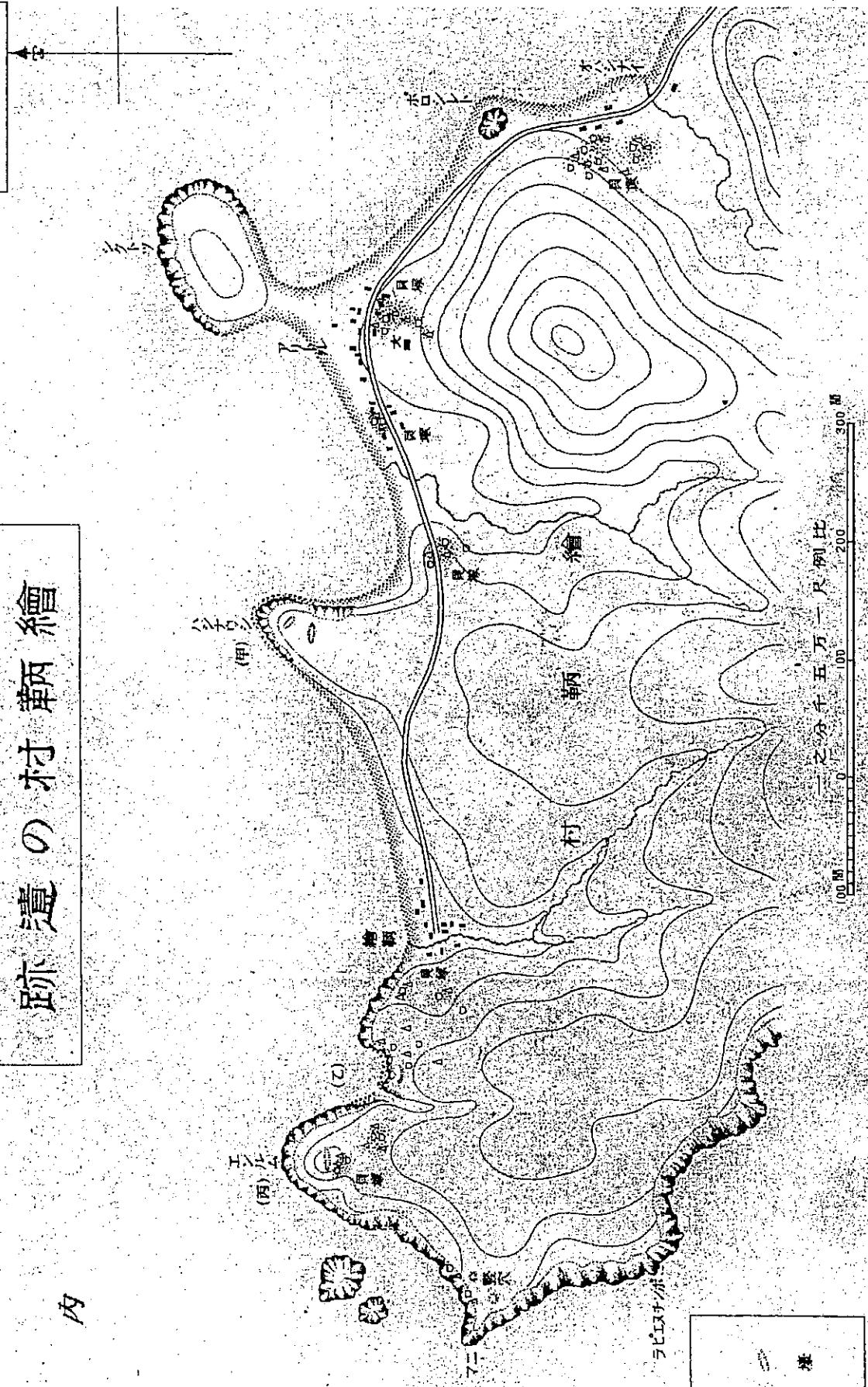
- 1階は、玄関職員室
- 2階は、家庭科室・図工室など
- 3階は、音楽室など
- 4階は、体育館として使用されていたが、体育館が新設されたが今も体育などに使用されている



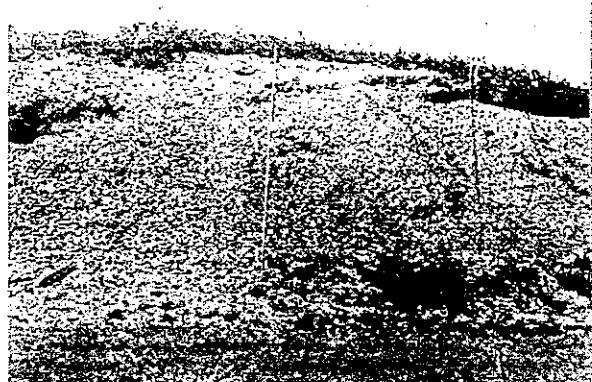
# 足元遺跡の村内

資料1 追加

絵軒貝塚 参考



勝振國室蘭郡室蘭町大字繪軒村に多くの遺跡あり。岩址はハシナウチに一箇、エルムに二箇現存す。壁穴はオハシナイ其他にありしが、周壁又は崩壊等によりて埋滅し、僅に二ア町に數箇を認めるのみ。貝塚はアリトル、オハシナイ、アリトルとハシナウチとの間、繪軒よりエルム岬に至る海岸丘岡等にあり、其層は二重或は三重にして土器、石器を交へ、或は金属器を含み、附近に土器、石器散在す。



大正期の絵鞆貝塚（北海道大学附属図書館蔵）

表 貝塚の推移

年次	記録	規模				記載
		長径	短径	厚み	面積	
大正 6	阿部 正巳	-	-	-	-	「三重の貝塚層あり」「表層は黒土約五寸、次に第一貝殻層約一尺五寸、次に黒土約五寸、次に第二貝殻層約一尺五寸、次に黒土約五寸、其の下に第三の貝殻層約三尺あり」「貝殻層内に他物を混在すること甚だ少なく、僅に少許の土器片、骨片等を採集せしに過ぎず」
大正 13	河野 常吉	十一間	十間	一丈二坪	-	「二個の祝津貝塚も其の一個は一部分を切崩され一個は既に取去るべく決定して如何ともする能わず」「大正一一年も亦切崩して七間程隔りたる處に聖影奉置所を建てたり。」「其の一側に附近人民が馬鈴薯を園ふ為め穿ちたる穴十二三個あり」「ポンナイ貝塚に比すれば土石器片は甚だ少なきものゝ如し」
大正 15	河野 常吉	-	-	-	-	「海汀埋立等の為め壊して、今は僅に絵鞆尋常小学校、校舎の前後に小部分を残すのみ」
昭和 初期	河野 常吉	直径七八十間	十尺餘	-	-	「当市中最大の貝塚」「此の大貝塚は家屋建築のため幾分破壊せられ、その後海汀埋立の際、切り崩し運搬し去られたるも、今日其の残部として其の一隅に長さ約十間、幅九間、厚さ約九尺の小塚を見るのみ。」
昭和 19	後藤 寿一	-	-	-	-	「貝塚は各所に散在するが、現在これを見ることの出来るものは絵鞆国民学校々庭にあるもののみである。これとてもその殆ど全部が地均しや防空壕構築等のため原型を失っている。」
昭和 28	名取 武光	-	2.7m	-	-	「墳丘状の貝塚」「表土から6.7層までは北筒式土器(上層に極く少數の入江式を混ずる)」「7.8層に円筒土器、約30種の貝層下、黒土包含層があり薄手の縄文土器片を出土」「貝層中に自然石を並べた炉跡」
昭和 50 噸	不明	13m	8m	1m	400 m <sup>2</sup>	「炉址2ヶ所(2層・6層)」

資料2 追加

アイヌ墓複数出遺跡

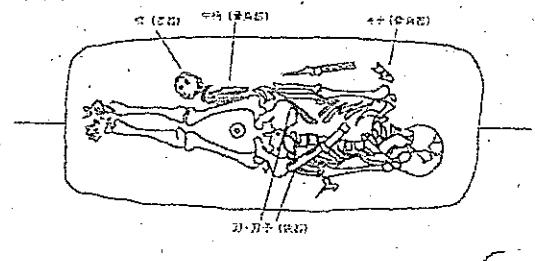
崎守2遺跡

資料3 遺跡

\*有珠善光寺遺跡（伊達市）は副愛

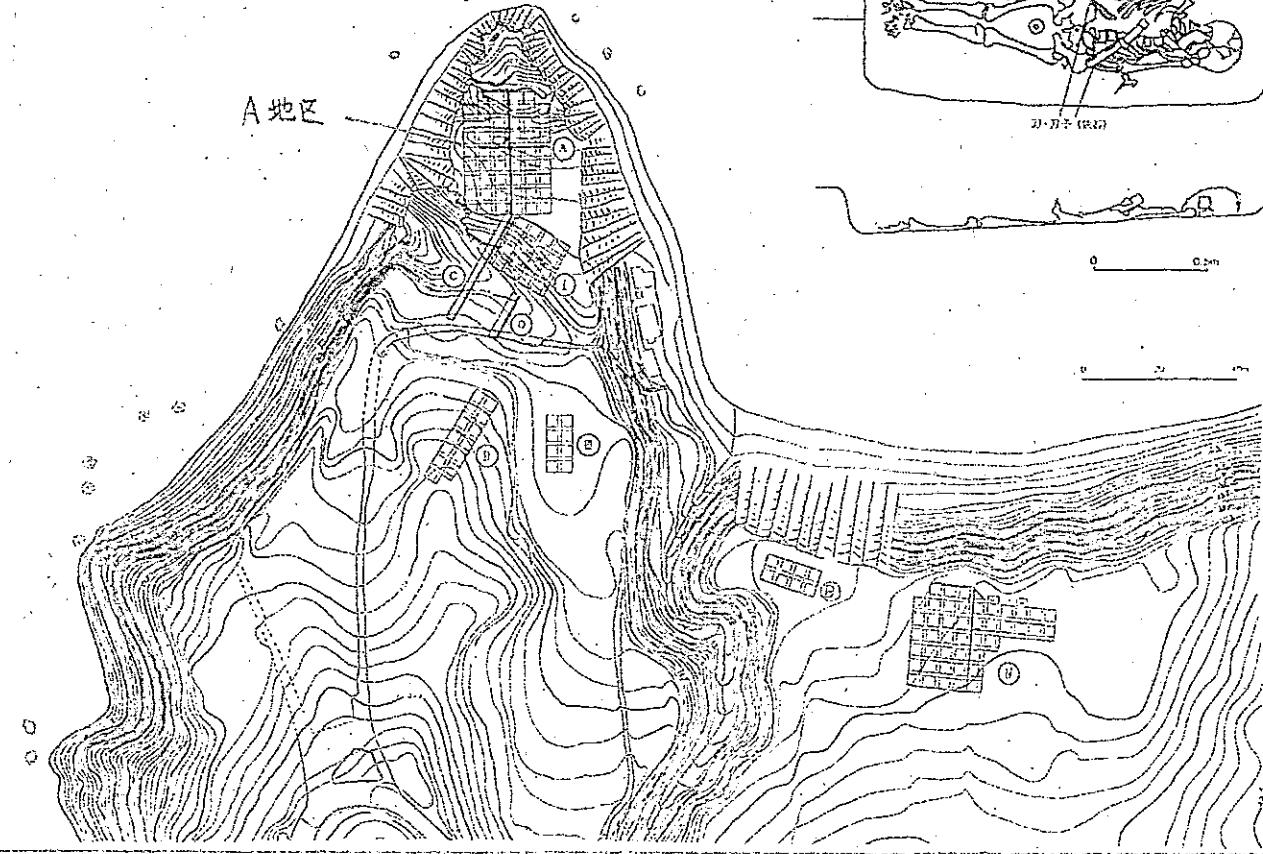
エンルム遺跡 『室尚繪柄遺跡発掘調査概要報告書』(大陽・清日編 1971)より

A地区



0 0.2m

0 0.2m



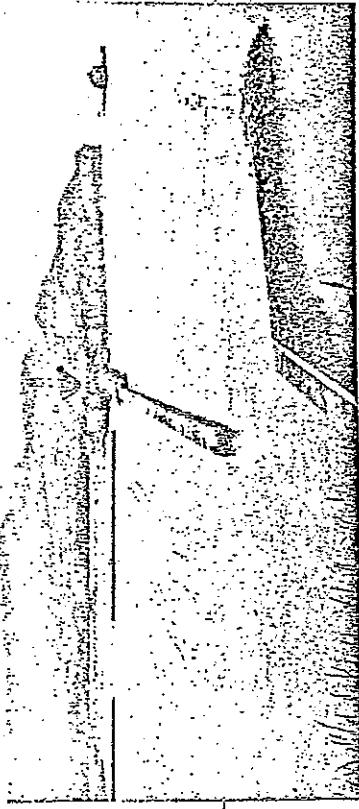
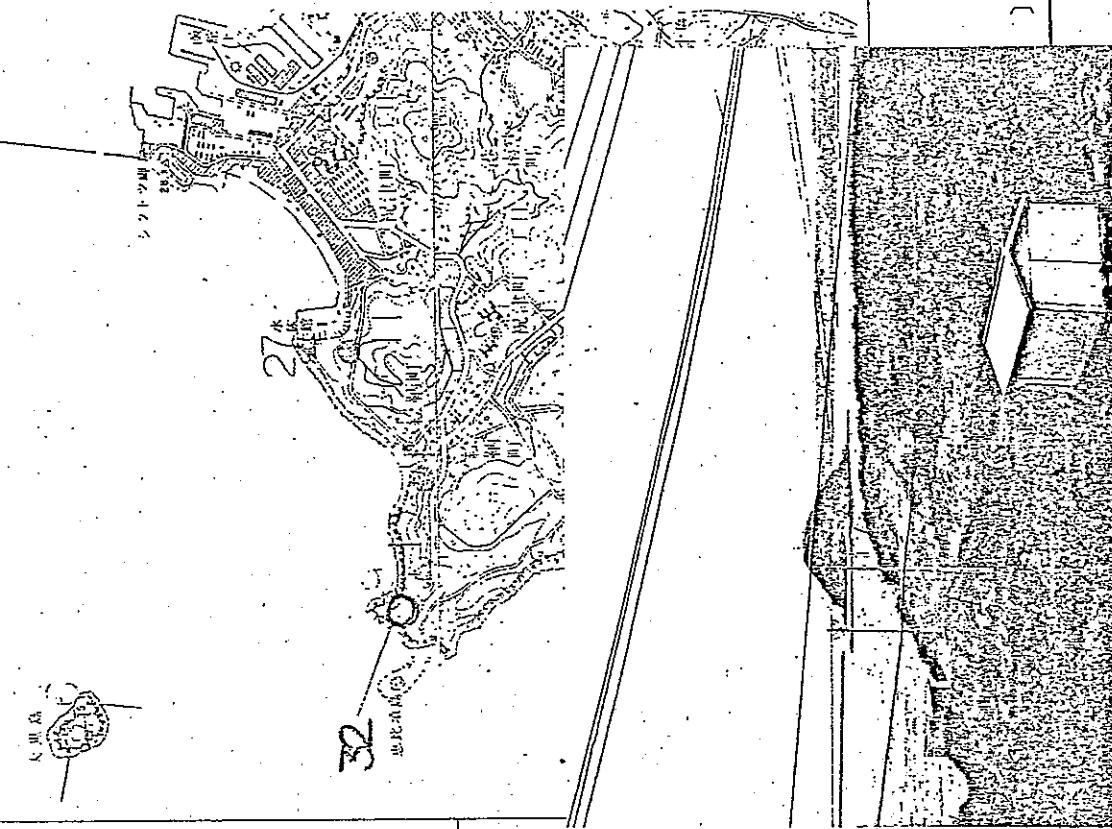
埋蔵文化財包蔵地調査カード

北海道 旭川市 支庁管内

種別	名稱	工シリム	遺跡	登録番号	丁・〇一・三二
所在地	室蘭市中央区2丁目11-1	(手)、番地	地図	本車輪西	
土地所有者	国・公・民( )住所( )	地目	宅地	集野	
時代	先土器(縄文)(オホーック)・(アイヌ)・( )	指定期	定	国・道・市・町・村・無	
包蔵地の概要	時期(型式)古式、梁川町式、円筒下唇式、余市式、北筒式、江戸式、亀が面式 立地 愚山式、牛尾式、海岸段丘舌状部 範囲(規模)	出土遺物	史料・伝承	有( )	
形態	系続竪文墓塚II、アヌ財塚3	石器各千種、金銅器(金針・金鋸 マキリ・金刀)骨角器(金竹柄、スヰ リ柄、ヘアビン、矢柄、根付・骨金)			
特徴・その他	環状(または土取り等)が行かれている(5.55.5)	金匙、重ね物(金)			
調査文獻	36年6月、溝口千鶴発掘調査 2m×2mトレンチ 潤山式の墳墓1分野発掘( ) 44年9月15~10月31室蘭市土地区画整理事業に伴う発掘調査 大場利夫( ) 37年6月室蘭遺跡Ⅱ 大場利夫 市立圖書館( ) 46年3月室蘭市会員の遺跡、発掘調査報告書 大場利夫、溝口千鶴 市教委( ) 年月( ) 年月( ) 年月( )	保管者			
作成者	作成年月日	年月日	包蔵地の価値	I・II・III	

略図

位置図(25,000分の1地形図を貼付)



## 埋蔵文化財包蔵地調査カード

北海道 胆振総合振興局管内

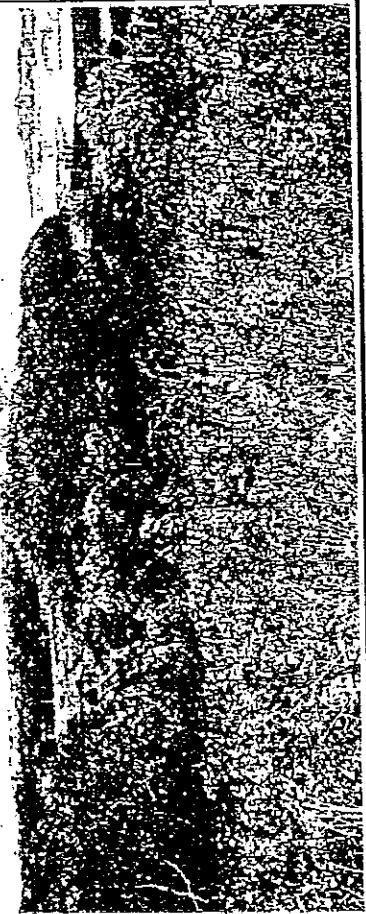
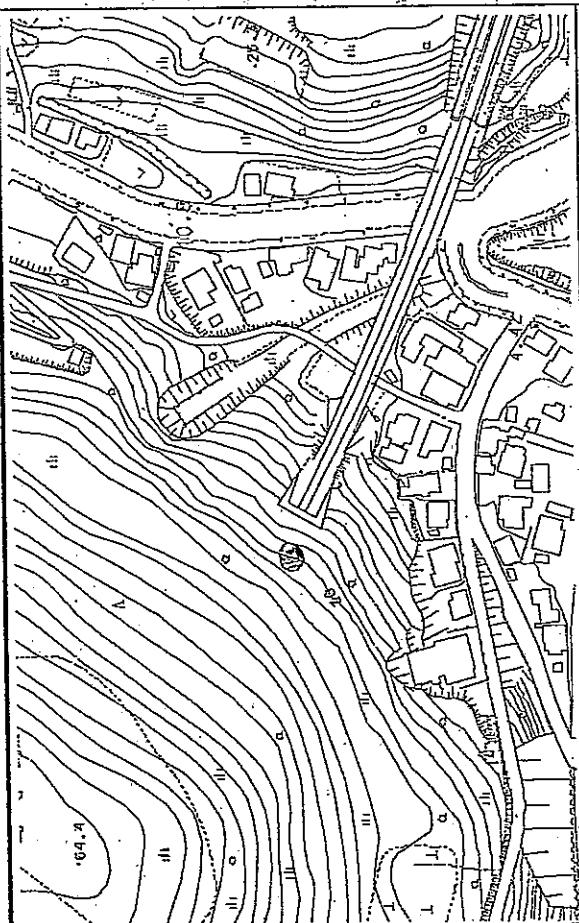
No.

種別	墳墓	名 称	崎守 2 遺跡	登録番号	J・01・37
所在地	室蘭市崎守町1 3.8番3			地図	本輪西
土地所有者	国・公・民( )、住所( )			地目	原野
時代	先土器・縄文・統繩文・撚文・(オホーツク)・(アイヌ)・( )			指定	国・道・市・町・村(無)
時期(型式)	近世・アイヌ文化期			史料・伝承	
立地	傾斜地		標高 30m	出土遺物	1号墓(タシロ2)
範囲(規模)	不詳				2号墓(マキリ1、タシロ1、キセル1、火打石1、漆碗1)
形態					埋蔵文化財遺体2体分
特徴・その他	2基の近世アイヌ墓を検出、埋蔵文化財遺体・副葬品等が出土した。				
包蔵地の概要	『新室蘭市史』では「崎守アイヌ墳墓遺跡」と記載される。				
				保管者	室蘭市教育委員会
					[ ]
			昭和43年4月6日 電柱設置作業中の人骨出土により発見		[ ]
			昭和43年4月 室蘭大谷高等学校教諭 溝口禎による発掘調査		[ ]
			昭和47年3月 「北海道各地の遺跡から出土した骨のマンガノ含量と骨・木炭・貝等の放射性炭素法による年代」		[ ]
			(下田信男)『北海道考古学』第8輯:1-10 北海道考古学会		[ ]
			昭和56年3月 「室蘭の先史時代」(溝口 禎)『新室蘭市史』第1巻:101-65 室蘭市役所		[ ]
調査・文献	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月
作成者	松田宏介	作成年月日	平成 26年 11月28日	包蔵地の価値	I・II・III
					室蘭市教育委員会

位置図 (25,000分の1地形図を貼付)



遺跡近景(北西方向から撮影)



埋蔵文化財包蔵地調査カ一ド

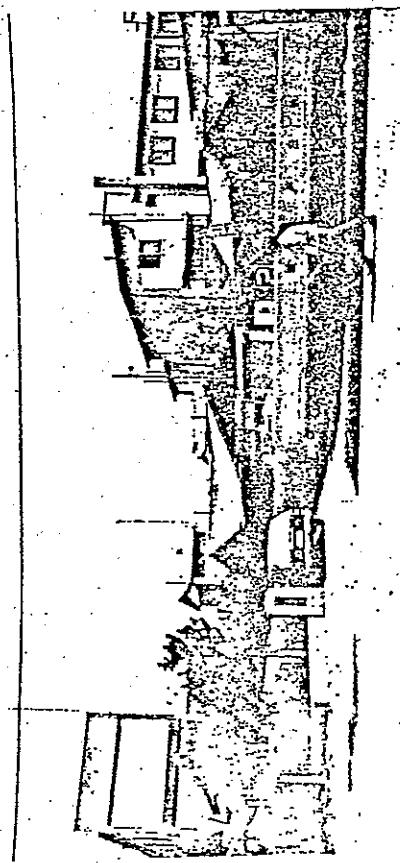
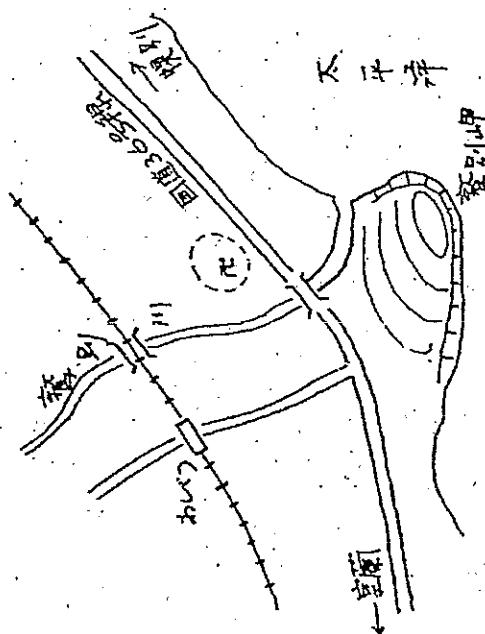
北海道 胆振 支庁管内

種別	遺物包含地名	称	舊里	了	遺跡	登録番号	丁 035
所在地	登別郡登別村	区	3丁目	みよ	- その他	地	図
土地所有者	國・公・民( )	住所	登別郡登別村	3丁目	みよ	地	目
時代	先土器・繩文・続繩文・擦文・(オホーツク)	(アイヌ)	(	)	)	指定期	国・道・市・町・村・無
包藏地の概要	時期(型式)	立地	範囲(規模)	標高	出土遺物	史料・伝承有り	( )
の特徴	その他	立地	範囲	出土遺物	人骨、鍔刀、漆器片	保管者	室蘭市立伝統資料館
の概要	かつて、宅送工事の際、人骨、鍔刀、漆器片が発見されたといふ。	立地	範囲	出土遺物	人骨、鍔刀、漆器片	保管者	室蘭市立伝統資料館
調査文獻	昭和47年4月20日 室蘭大谷高校教諭 溝口禎希見	年	月	年	月	年	月
作成者	北海道教育委員会	作成年月日	昭和45年ノ月	/	α日	包蔵地の価値	I・II・III

位置図（25,000分の1地形図を貼付）



略図



その他参考となるべき事項